

各関係機関 御中

石川県農林総合研究センター所長  
( 公 印 省 略 )

病害虫発生予察情報について

令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 病害虫防除室 電話 076-257-6972 (直通) FAX 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	--

病害虫発生予察特殊報第1号

トマトキバガの初確認

1 病害虫名 トマトキバガ

*Tuta absoluta* (Meyrick)

2 発生経過

(1) 令和5年9月30日、名古屋植物防疫所伏木富山支所小松出張所敷地内に設置したトマトキバガの侵入調査用のフェロモントラップにおいて誘殺された雄成虫を、10月2日に同所で同定したところ、本県では未発生のトマトキバガであることが判明した。

(2) 現在のところ、県内において本種による農作物の被害は確認されていない。

3 国内での発生状況

本種は、国内では令和3年10月に熊本県のトマトほ場で初めて確認された。計26道県で確認されている(令和5年10月10日現在)。

4 形態

成虫は翅を閉じた静止時で体長5~7mm(前翅長5mm弱、開張約10mm)。前翅は灰褐色で黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である。

幼虫は終齢で約8mmに達する。体色は淡緑色~淡赤白色で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する。

5 生態及び被害

(1) 1年に複数回の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、南米では年に10~12世代発生することが報告されている。卵~成虫になるまでの期間は24~38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。また、発育下限温度は8℃とされている。成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。雌は一生のうち平均で約260個の卵を寄生植物の葉の裏面などに産み付ける。

幼虫は1齢～4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

- (2) トマト、バレイショ等のナス科とインゲンマメが主要な寄生植物である。トマトでは、葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、葉肉内に孔道が形成される。食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度の穿孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する。

## 6 防除対策

- (1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2) 被害葉や被害果はほ場から持ち出し、野外に放置せずに土中深くに埋却するか、ビニル袋に入れて一定期間密閉し成幼虫を死滅させるなど、適切に処分する。
- (3) 現在、トマトキバガに対する登録農薬はトマトとミニトマトにある。また、薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行う。(農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)

## 7 参考写真



葉の被害(植物防疫所原図)



果実の被害(植物防疫所原図)



成虫(植物防疫所原図)



幼虫(植物防疫所原図)